

話 題

第 141 回アメリカ水産学会参加報告 —世界水産協議会非公式会議の報告もあわせて—

木下滋晴, 渡部終五

東京大学大学院農学生命科学研究科

第 141 回アメリカ水産学会が 2011 年 9 月 4~8 日にシアトルのワシントン州 Convention Center (WCC) で開催された。開催地の魅力もあったためか、大会の規模はアメリカ水産学会としては過去最大となり、会場は人であふれていた。以下、学会の概要と国際交流関係の行事について報告する。

学会の概要

アメリカ水産学会 (AFS) 側からの発表によると、会議参加者 4,300 名以上、口頭発表 2,400 以上、ポスター発表 450 以上とのことであった。参加者の増加に対応して、要旨の web からのダウンロードは 2 年前の大会から行われていたようであるが、今回はさらに、講演者にはプレゼンテーションファイルを事前に web でアップロードすることが強く推奨されていた。会場にもそのような場所が設けられていたが、全員が集まると大変な混雑が予想され、事前アップロードという形式をとったようである。口頭発表者の 6 割が事前アップロードを利用したとのことで、当日会場でのアップロードは余裕をもって行うことができていた。

5 日から始まった会議では環境や資源保護、保全に関する話題を中心に常時 30 近いシンポジウムが同時進行で行われており、朝 8 時から夕方 5 時過ぎまで、一演題 15 分間でびっしりと発表が行われた。新しい話題としては、シンポジウム「Conservation Genetics and Genomics in Fisheries」が行われ、次世代シーケンサを使ったゲノムやトランスクリプトーム、SNPs 等のデータの蓄積がサケ類を中心に進んでおり、徐々に応用にもつながりつつあるという印象を持った。また、7~8 日には、第 3 回日米水産学会合同シンポジウムを兼ねた「Climate Change and Pacific Salmonids」が開催され、日本側からは日本水産学会の公募で選ばれた帰山雅秀、浦和茂彦、棟方有宗、木下滋晴の 4 名が講演者として参加した。詳細は別途、帰山雅秀の報告が本誌に掲載されるが、参加者も多く、熱心な討論が行われ、盛会であったことを申し添える。なお、浦和茂彦、棟方有宗の両名の旅費の一部は日本水産学会が負担、木下滋晴の旅費および参加登録費は AFS が全額負担、帰山雅秀は日本水産学会の国際交流委員会委員の立場から参加し、委員長の木下終五とともに航空運賃は日本水産学会が負担、

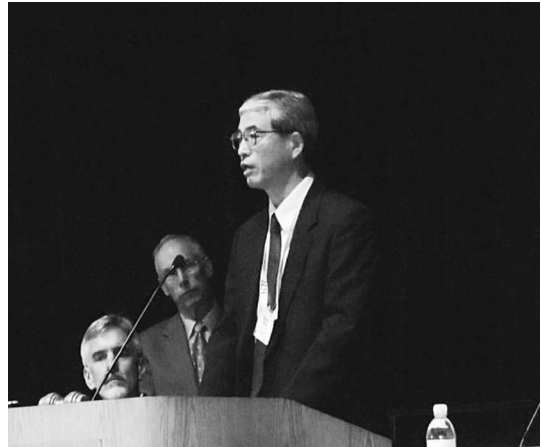


写真 1 総会で挨拶する渡部終五

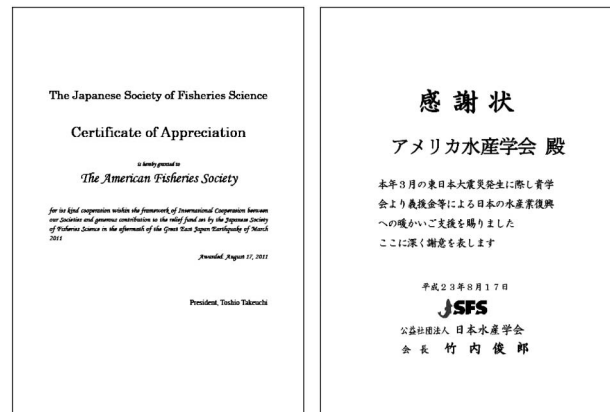


図 1 日本水産学会からアメリカ水産学会に贈られた感謝状



写真 2 総会で挨拶する帰山雅秀

滞在費および参加登録費は AFS が負担した。

6日に開催された総会（Business Meeting）では、AFS 会長 Wayne A. Hubert の挨拶の後、来賓挨拶で、渡部終五が東日本大震災に対する AFS の多大なる援助に感謝の言葉を述べ（写真 1）、義援金の使途を説明するとともに、感謝状（図 1）を贈呈した。また、帰山雅秀が第 3 回日米水産学会合同シンポジウムの moderator として挨拶をした（写真 2）。各賞の授賞式に続いて、AFS 会長の交代式が行われ、新会長として Bill Fisher が就任した。最後に、2012 年 8 月 19～23 日ミネアポリスで開催予定の第 142 回アメリカ水産学会大会がプロモーションビデオ付で紹介された。

6日には International Fisheries Section の会議が行われ、メキシコ、バングラディシュ、イギリス、インド、ブラジル、アルゼンチンなど、各国の水産および関連学会の代表が出席した。日本水産学会からは渡部終五と国際交流委員会幹事の木下滋晴が参加した。会計報告や活動報告のほか、ブラジルなど今まで交流のあまりない国との交流支援をどのように進めていくかなどが話し合われた。

7日の夜には交歓会が、8日最終日は一般の講演が終了後、会場近くのホテルで Farewell Social が行われ、閉会となった。

以上、最大規模となった AFS 大会であったが、発表時間の遵守が徹底され、会議の進行に大きな遅れはなく、発表スライドの事前アップロードなどの試みもあって、大会運営はスムーズであった。（木下滋晴）

世界水産協議会非公式会議

期間中開催された世界水産協議会（WCFS）非公式会議では、アメリカ水産学会、イギリス水産学会、メキシコ水産学会、オーストラリア魚類学会などが参加し、日本水産学会からは国際交流委員会の渡部終五と帰山雅秀が出席した。WCFS 副会長で AFS 会員の Doug Beard から前回の会議の内容紹介があった後、AFS 専務理事で WCFS 事務局長の Gus Rassam から WCFS の事業報告があった。続いて、イギリス水産学会長の Ian

Winfield から 2012 年イギリス、エディンバラで開催される第 6 回世界水産学会議（WFC2012）の準備状況が説明され、参加申し込みの状況、学生の旅費の援助等が紹介された。

東日本大震災直後から、元 AFS 会長の Robert M. Hughes から WFC2012 において人為的災害および自然災害のセクションを設けたいとの意見が寄せられていたが、今回改めてこの提案があった。現時点でこのセクションは提案段階であり、開催の保証はないが、日本水産学会からも大震災の影響を紹介して欲しいとの要請があった。関連して、WCFS 事務局および各国代表からは大震災のその後の日本水産学会の取り組み状況を随時知らせて欲しい旨の強い要請があった。日本水産学会からの情報発信の方法としては、ホームページの英語版を作成して各国の水産研究者に現状を知らせることが考えられるが、災害復旧に関しては国際的な連携も必要と思われる。

各国水産学会の情勢が報告された後、国際水産賞についての議論が交わされ、本年 12 月 1 日までには候補者を各国から集めること、団体ではなく個人を対象とすることが確認された。本賞は 2004 年カナダのバンクーバーで開催された第 4 回 WFC の剰余金を運営資金としている。2008 年横浜で開催された第 5 回 WFC を直前に控えて初めて創設されたもので、4 年に 1 度開催される WFC に合わせて選定および表彰が行われることになっている。先の選定では AFS が主導したが、選定過程が不明瞭であるとの批判があった。今回、この点をどのように改善するかを議論したが、次回の WFC も迫っており、予断を許さない状況である。なお、2016 年第 7 回 WFC の開催国については、南アフリカ、オーストラリア、インドなどが候補として挙げられたが、決定はされていない。

また、別途、AFS およびオーストラリア魚類学会との話し合いで、韓国水産科学会および中国水産学会も含めて 2013 年春頃に合同シンポジウムを日本で開催してはどうかとの案が持ち上がっている。（渡部終五）